

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

【1:経営の基本的考え方】

川崎市が期待する役割と経営改革	<p>①期待する役割 川崎市文化財団は、市民の文化活動の振興を図り、市民生活の向上と川崎市における新しい市民文化の創造に寄与することを目的とし、目的達成のための諸事業を行っている。同財団に対して、公益性の高い事業を実施し、もって本市の文化施策推進の一翼を担うことを期待している。また、ミュージア川崎シンフォニーホール、川崎市アートセンター、東海道かわさき宿交流館の指定管理者として、ホールや施設の魅力的な運営を行い、市の内外に音楽・映像・演劇等、良質で川崎らしい文化を発信するとともに、さまざまな分野の文化芸術の振興を図り、文化芸術を活かしたまちづくりへの貢献を期待している。</p> <p>②経営改革項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能等の鑑賞事業及び普及事業や、地域文化を支える人材育成事業など、幅広い文化芸術振興事業の実施と文化施設の効果的な運営 ・利用者ニーズに応じた利用調整等、施設における利用率の維持向上と、魅力ある公演企画による入場者増 ・市民ニーズと市民文化の創造を促進するため、各種事業をマッチングし、事業の有効性を高めていくための手法の確立 ・市の施策に沿った事業を効果的に実施していくための事業運営や企画立案等に係るノウハウの蓄積及び継承
法人のミッション	<p>(1)多様な文化芸術事業の実施(市民の文化芸術活動の振興、川崎市における文化芸術の創造を促進、多様なジャンルの文化芸術事業)</p> <p>(2)文化芸術施設の管理運営(市民の自発的かつ創造的な文化芸術活動の場を提供、文化芸術の創造と発信、文化芸術活動の支援と協働を推進)</p> <p>(3)効率的な事業運営(財団全体の組織力を結集、経営感覚に富んだ効率的な事業運営)</p>
現状及び課題の分析	<p>文化芸術を活かしたまちづくりの推進における中核的な組織として、市民の文化芸術活動への意欲を尊重し自主的な活動を支援するための事業を総合的に展開している。採算ベースの確保が難しい事業分野であるが、利用者増による収入の増加を図る必要がある。また、地域における文化芸術活動の活性化がもたらす多様な分野の地域課題解決に対する効果について、市民の理解が得られるよう市民の文化芸術活動の支援・協働をさらに推進していく必要がある。</p>
経営ビジョン	<p>(1)市民が多様な文化芸術に触れ、その創造に参加できる場を提供し、創造的・主体的な文化芸術活動を支援・協働することで、市民が生き生きと心豊かに暮らし、交流する、愛着と誇りを持てる地域社会の構築に寄与する。</p> <p>(2)文化芸術が息づくまちづくりを地域ブランドとして高め、地域が活性化し一体となって、文化芸術を活かしたまちづくりに参加できるよう、文化芸術に携わる地域人材を育成するとともに、育成した人材を活用した文化芸術事業を展開する。</p>

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

4カ年の目標と成果指標の体系	3年後の法人像	3か年計画の目標	事業名	事業目的	最終アウトカム	中間アウトカム	アウトプット
	文化芸術活動への参加を通じて、市民が生き生きと心豊かに暮らし、交流する地域社会の構築に寄与する。	市民が多様な文化芸術に触れ、その創作等に参加できるよう文化施設を適切かつ効率的に管理運営するとともに、創造的で主体的な市民の文化芸術活動について支援・協働することにより、市民が生き生きと心豊かに暮らし、交流する、愛着と誇りを持てる地域社会の構築	A事業: 多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等	東海道かわさき宿交流館(指定管理施設)、アートガーデンかわさき、川崎能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホールを活用した文化芸術活動の場を市民に提供するとともに、集結した人材や資源による、市民の自主的な文化芸術活動をコーディネートし、支援・協働する事業を展開する。	東海道かわさき宿交流館の利用者数 ラゾーナ川崎プラザソルの利用率	東海道かわさき宿交流館のイベント等参加者数 ラゾーナ川崎プラザソルの利用団体数	東海道かわさき宿交流館のイベント等回数 ラゾーナ川崎プラザソルの利用可能件数
		「音楽のまち・かわさき」をはじめとした文化芸術を活かしたまちづくりを推進するとともに、様々な主体を対象とした文化芸術の創造・発信に関する事業や質の高い魅力的な事業を展開し、川崎の魅力育て、新しい都市イメージを創出する。	B事業: ミューザ川崎シンフォニーホールにおける音楽事業	「音楽のまち・かわさき」のシンボルであるミューザ川崎シンフォニーホール(指定管理施設)において、優れた音響効果と高いホスピタリティを享受できる魅力ある音楽事業を展開し、国内外から人々が集まり、交流する拠点としての存在感をさらに高め、クラシック音楽を中心とする文化芸術の創造・発信を推進する。	主催・共催公演の入場者率 ホール日数利用率	主催・共催公演の入場者数 ホール利用日数	主催・共催公演の回数 貸館公演の回数
		文化芸術が息づくまちづくりを地域ブランドとして高め、豊かな文化芸術を身近に感じながら、市民が集い、協働する中で地域が活性化し一体となって、文化芸術を活かしたまちづくりに参加できるよう、文化芸術に携わる地域人材を育成するとともに、育成した人材を活用した文化芸術事業を展開する。	C事業: 川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業	「アートのまちづくり」「しんゆり・芸術のまち」の拠点施設である川崎市アートセンター(指定管理施設)において、舞台芸術、映画映像芸術を創造・発信し、文化芸術に携わる地域人材等と連携しながら、市民による文化芸術活動の支援・協働を推進する。	映画・演劇入場者率 演劇・イベントボランティア参加者数	映画・演劇入場者数 ワークショップ等の応募人数	映画上映・演劇公演回数 ワークショップ等の開催回数
法人の主な事業内容	A事業: 多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等	東海道かわさき宿交流館(指定管理施設)、アートガーデンかわさき、川崎能楽堂、ラゾーナ川崎プラザソル、新百合トウェンティワンホールを活用した文化芸術活動の場を市民に提供するとともに、集結した人材や資源による、市民の自主的な文化芸術活動をコーディネートし、支援・協働する事業を展開する。	B事業: ミューザ川崎シンフォニーホールにおける音楽事業	「音楽のまち・かわさき」のシンボルであるミューザ川崎シンフォニーホール(指定管理施設)において、優れた音響効果と高いホスピタリティを享受できる魅力ある音楽事業を展開し、国内外から人々が集まり、交流する拠点としての存在感をさらに高め、クラシック音楽を中心とする文化芸術の創造・発信を推進する。	C事業: 川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業	「アートのまちづくり」「しんゆり・芸術のまち」の拠点施設である川崎市アートセンター(指定管理施設)において、舞台芸術、映画映像芸術を創造・発信し、文化芸術に携わる地域人材等と連携しながら、市民による文化芸術活動の支援・協働を推進する。	

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

4か年の経営課題 (必ず財務の視点と業務の効率化の視点を含める)	A事業:多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等	多様な文化芸術活動の場を市民に提供するとともに、市民の自主的な文化芸術活動を支援・協働する事業を展開するとともに、事業収入の確保及び業務運営の効率性を高める。
	B事業:ミューザ川崎シンフォニホールにおける音楽事業	「音楽のまち・かわさき」のシンボルとなる施設として、優れた音響効果と高いホスピタリティを享受できる魅力ある音楽事業を展開し、国内外から人々が集まり、交流する拠点としての存在感をさらに高めるとともに、事業収入の確保及び業務運営の効率性を高める。
	C事業:川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業	「しんゆり・芸術のまち」の拠点として、創造発信、地域連携・育成、鑑賞の舞台芸術事業と、良質な映画上映の鑑賞、人材育成、地域連携の映像事業を展開し、効果的・効率的な事業運営を進めるとともに、事業収入の確保及び業務運営の効率性を高める。
	財務改善	利用者増による事業収入の確保、国等の補助金その他自己収入の確保に努め、行政サービスコストの縮減に努める。
	業務・組織の改革	優れた文化芸術事業を企画・実践し、市民の文化芸術活動を創造・支援できる人材を確保・育成する。

指標と目標値の設定根拠	項目		指標の種類	指標	指標の選定理由	目標値(単位)	目標値の設定根拠
	指標と目標値の設定根拠	A事業:多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等	アウトプット	東海道かわさき宿交流館のイベント等日数	常設展示以外の来館を促す企画の有無が集客努力の指標となる。	270日	企画展示実施日数及び集客イベント(毎月2回)実施日数の予定から設定した。
アウトプット			ラゾーナ川崎プラザソル利用可能件数	効率的な施設運営により貸館の利用機会を多く提供することが最終的な利用増につながる。	975件	過去3年間の数値推移に基づき設定した。	
中間アウトカム			東海道かわさき宿交流館のイベント等参加者数	参加者数は、魅力的なイベント等であるか否かを示す指標である。	30,000人	企画展示来場者数及び集客イベント参加数の見込から設定した。	
中間アウトカム			ラゾーナ川崎プラザソル利用団体数	利用団体数を増えることは、最終的な利用件数の増加につながる。	145団体	過去3年間の数値推移に基づき設定した。	
最終アウトカム			東海道かわさき宿交流館の利用者数	多様な用途の施設利用者数は、地域交流等の施設の有存在意義の指標となる。	40,000人	展示、イベント、休憩、貸館利用等の人数の見込から設定した。	
最終アウトカム			ラゾーナ川崎プラザソル利用率	利用率は、貸館施設としての主要な経営指標である。	80%	過去3年間の数値推移に基づき設定した。	
B事業:ミューザ川崎シンフォニホールにおける音楽事業		アウトプット	主催・共催公演の回数	ホールへの来館を促す企画の有無が集客努力の指標となる。	90回	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。	
		アウトプット	貸館公演の回数	効率的な施設運営により貸館の回数を増やし、利用いただくことがホール評価の指標となる。	80回	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。	
		中間アウトカム	主催・共催公演の入場者数	入場者数は、公演内容の充実度を示す指標である。	100,000人	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。	
		中間アウトカム	ホール利用日数	ホールの利用日数が増えることは、最終的な日数利用率の増加につながる。	318日	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。	
		最終アウトカム	主催・共催公演の入場者率	主催・共催公演の入場者率は、実演芸術の鑑賞機会として文化芸術創造・発信の指標となる。	75%	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。	
		最終アウトカム	ホール日数利用率	貸館も含めたホール日数利用率は、音楽のまちかわさきのシンボル施設としての存在意義の指標となる。	98%	平成23・24年度はホール休館のため、平成21・22年度の数値推移に基づき設定した。	

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

C事業:川崎市 アートセンターに おける舞台芸 術、映画・映像等 事業	アウトプット	映画上映・演劇公演回数	上映回数・公演回数は施設の稼働実態の指標となる。	1600回	24年度の実績に基づいて設定した。
	アウトプット	ワークショップ等の開催回数	ワークショップの回数は、人材育成事業の取り組み実態の指標となる。	25回	24年度の実績に基づいて設定した。
	中間アウトカム	映画・演劇入場者数	入場者数は、アートセンターの主要事業である舞台芸術・映画事業の内容の指標となる。	64,000人	24年度の実績に基づいて設定した。
	中間アウトカム	ワークショップ等の応募人数	応募人数は、ワークショップ事業内容の魅力を量る指標となる。	700人	24年度の実績に基づいて設定した。
	最終アウトカム	映画・演劇入場者率	入場者率は、上映映画の内容、演劇公演の内容や上映日程、公演日程を量る指標となる。	35%	24年度の実績に基づいて設定した。
	最終アウトカム	演劇・イベント等のボランティア参加者数	ボランティア参加者数は、イベント等の魅力や参加しやすい開催環境を量る指標となる。	300人	24年度の実績に基づいて設定した。
	財務改善	国等の資金確保	川崎市の財政支援依存度低減のため、国等の補助金を獲得できる事業手法を創出する。	2,000千円	過去3年間の数値推移に基づき設定した。
			川崎市の財政支援依存度低減のため、事業収入及び付随的収入を含め自己収入を確保する。	330,000千円	実績値に基づき設定した。
	業務・組織の改革	専門性の高い人材確保等	優れた事業企画を実施できる人材を確保・育成する。	実施	指定管理制度との整合性を考慮しながら専門性の高い優れた人材を確保するとともに、人材の能力を発揮・向上させる育成等を図る。
			財団事業の多様なPR推進	実施	個別の事業PRに加えて、財団自体のイメージアップを図る多様なPR活動をさらに推進する。

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

【2:行動計画】

計画期間	平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日 (4 カ 年)
------	--

(1)A事業:多様な文化芸術施設(事業B、C施設を除く)の特性を活用した文化芸術事業等

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
東海道かわさき宿交流館のイベント等日数	H25.10.1に開設した施設であり年度の実績値はないが、事業計画に基づき設定した。	企画展示は開期3週間程度で10回、イベント等は月2回開催を計画する。	270日	270日	270日	270日
ラゾーナ川崎プラザソル利用可能件数	過去3年度と同水準で推移している。	効率的な施設運営により貸館の利用機会を多く提供する。	975件	975件	975件	975件
東海道かわさき宿交流館のイベント等参加者数	H25.10.1に開設した施設であり年度の実績値はないが、事業計画に基づき設定した。	来館者ニーズに合致した事業企画によりリピーターを確保する。	30000人	30000人	30000人	30000人
ラゾーナ川崎プラザソル利用団体数	過去3年度と同水準で推移している。	より多くの利用団体を顧客として確保し、経営の安定を図る。	145団体	145団体	145団体	145団体
東海道かわさき宿交流館の利用者数	H25.10.1に開設した施設であり年度の実績値はないが、事業計画に基づき設定した。	魅力的な事業企画とともに、常設展示や貸館の良好な利用環境提供により利用者増を図る。	40000人	40000人	40000人	40000人
ラゾーナ川崎プラザソル利用率	過去3年度と同水準で推移している。	貸館利用率を高め、経営効率を向上させる。	80%	80%	80%	80%

(2)B事業:ミューザ川崎シンフォニーホールにおける音楽事業

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
主催・共催公演の回数	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均回数と同水準で推移している。	芸術創造発信型事業のみならず、教育や人材育成事業を含めた公演を計画する。	90回	90回	90回	90回
貸館公演の回数	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均回数と同水準で推移している。	効率的な施設運営により貸館の利用機会を多く提供する。	80回	80回	80回	80回
主催・共催公演の入場者数	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均入場者数と同水準で推移している。	芸術創造発信型事業のみならず、教育や人材育成事業を含めた幅広い公演を実施し、入場者獲得を図る。	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人
ホール利用日数	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均日数と同水準で推移している。	効率的な施設運営により、主催・共催公演や貸館の利用日数を増やし、利用者数の獲得を図る。	318日	318日	318日	318日
主催・共催公演の入場者率	H25年度は、過去2年度平均(71%)と同水準で推移している。	芸術創造発信型事業のみならず、教育や人材育成事業を含めた幅広い公演を実施し、入場者獲得を図る。	75%	75%	75%	75%
ホール日数利用率	H25年度は、過去2年度(H21~22年度)の平均利用率と同水準で推移している。	主催・共催公演、貸館及び保守点検の効率的なスケジュール調整により、日数利用率向上を図る。	98%	98%	98%	98%

経営改善計画

法人名	公益財団法人川崎市文化財団	所管部署	市民文化局市民文化振興室
-----	---------------	------	--------------

(3)C事業：川崎市アートセンターにおける舞台芸術、映画・映像等事業

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
映画上映・演劇公演回数	映画上映回数は、24年度の利用日数が315日で1463回であり、91%の稼働率である。演劇は、利用日数253日で126回73%である。	演劇は、貸館利用を進め、利用日数の増と自己収入の増を図る。	1600回	1600回	1600回	1600回
ワークショップ等の開催回数	映画関係ワークショップは定例化している。演劇関係は24年度6回開催した。	ワークショップは、他主催の時期や内容を調整し、夏休み・春休みを中心に開催していく。	25回	25回	25回	25回
映画・演劇入場者数	映画は、24年度実績で48,228人で1上映あたり33人、演劇は、15,720人で1公演あたり125人である。	映画は、「見てもらいたい映画、見てみたい映画」を継続し、24年度実績を維持していく。演劇は、演目により入場者数に格差があるので、日程の調整、内容の充実、広報工夫を図り、入場者数の増につなげていく。	64000人	64000人	64000人	64000人
ワークショップ等の応募人数	24年度の実績から、演劇は400人、映画は250人である。	ワークショップは、少人数で開催するものであるから、応募者数が多いことは必ずしも肯定すべきものとは限らないが、魅力あり、実のある内容により人材育成の一端を担っていく。	700人	700人	700人	700人
映画・演劇入場者率	入場者率(=入場者数÷上映・公演回数×座席数)は、映画は30%、演劇は64%である。映画・演劇合計で34%である。	映画は、「見てもらいたい映画、見てみたい映画」を継続し、24年度実績を維持していく。演劇は、演目により入場者数に格差があるので、日程の調整、内容の充実、広報工夫を図り、入場者数の増につなげていく。	35%	35%	35%	35%
演劇・イベント等のボランティア参加者数	ボランティア参加者数は、しんゆり寄席が10人×10回=100人、アート講座が15人×12人=180人である。	演劇やイベントの魅力や参加しやすい開催環境を創出し、ボランティア参加の充実を図る。	300人	300人	300人	300人

(4)財務の改善

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
国等の資金の確保	H24年度の実績1,956千円	川崎市の財政支援依存度低減のため、国等の補助金を獲得できる事業手法を創出する。	2000千円	2000千円	2000千円	2000千円
自己収入の確保	H24年度の実績326,314千円	川崎市の財政支援依存度低減のため、事業収入及び付随的収入を含め自己収入を確保する。	330000千円	330000千円	330000千円	330000千円

(5)業務・組織の改革

目標項目	現 状	行動計画	スケジュール			
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
専門性の高い人材確保等	1年単位の有期契約により雇用している。	指定管理制度との整合性を考慮しながら専門性の高い優れた人材を確保するとともに、人材の能力を発揮・向上させる育成等を図る。	検討	計画	検討	計画
財団事業の多様なPR推進	個別の事業PRとともに、財団自体のイメージアップを図るPR活動にも取り組んでいる。	個別の事業PRに加えて、財団自体のイメージアップを図る多様なPR活動をさらに推進する。	検討	計画	実施	実施

資金計画表

[平成26年度～平成29年度]

法人名: 公益財団法人川崎市文化財団

(単位:千円)

項目			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収支	収入	事業収入	1576713	1576713	1576713	1576713
		営業債権増加高				
		補助金収入	400445	400445	400445	400445
		委託費収入				
		寄付金収入	7760	7760	7760	7760
		雑収入	2990	2990	2990	2990
		その他収入	41740	41740	41740	41740
		...				
	経常収入合計		2029648	2029648	2029648	2029648
	支出	事業費	1994783	1994783	1994783	1994783
		管理費	42421	42421	42421	42421
		減価償却費(△)	-13700	-13700	-13700	-13700
		貸倒引当金繰入(△)				
		退職給付引当金繰入(△)				
営業債務増加高(△)						
法人税等支払						
...						
経常支出合計		2023504	2023504	2023504	2023504	
経常収支		6144	6144	6144	6144	
投資収支	固定資産取得支出					
	固定資産売却収入					
	...					
投資等収支		0	0	0	0	
財務収支	借入れによる収入					
	借入金償還による支出					
	利息/配当金の支払					
財務収支		0	0	0	0	
現金預金増加高			6144	6144	6144	6144
期首現金預金			16000	22144	28288	34432
期末現金預金			22144	28288	34432	40576